

岡田地区の紹介

龍献寺より集落を望む



KTR 木津駅より網野方面約 1.5Km



沿革

岡田地区の元々は^{おかだ}大向、^{おおむかい}岡田という二分の地名があったと云います。大向は KTR 線の踏切を渡った奥に広がる集落をいい、岡田は KTR 線に沿って群がっていた集落であると言います。この両者の地区を総称して「岡田」と称しているということです。世帯数も過去よりほとんど変わらず 36 世帯であります。過去は農業で生計を立て、後に広まった織物業は、現在その音が数軒の家から聞こえる程度であります。子供の数も多くなく、過去より多い時でも十数人程度であったとの話です。

暮らし

過去には年に 4～6 回講中内(秋葉神社講中※現在でいうところの隣組ではない)で集まり飲食をしながら親睦を楽しんだ。しかし、若い世帯の声が反映され現在は区全体で年 2 回、不動滝の例祭の後などに公会堂で全区民対象にその親睦が行われていると云います。

祭事

この集落より上(加茂川地区)にある賀茂神社の氏神祭りです。地区の 80 代の方を訪ねお聞きしましたところ、秋祭りは 10 年前までは屋台を引き、笛・太鼓・三味線など奏でながら巡行する伝統色の強い行事でしたが、現在は賑やかなダンジリで太鼓を叩いて巡行する内容になっていると聞きます。さらに子ども数が少ないので、大人が引率していると云います。どの地域でもそうですが、どんな小さな集落でも、祭りが唯一人々の慰労と賑いの時なのですが、区民減少、少子化でその祭囃子は消えていく時勢であり残念ですと話されていました。



加茂神社を出発する神輿連

岡田地区の青年は隣の加茂川地区の青年との混合で賀茂神社の神輿を巡行させています。

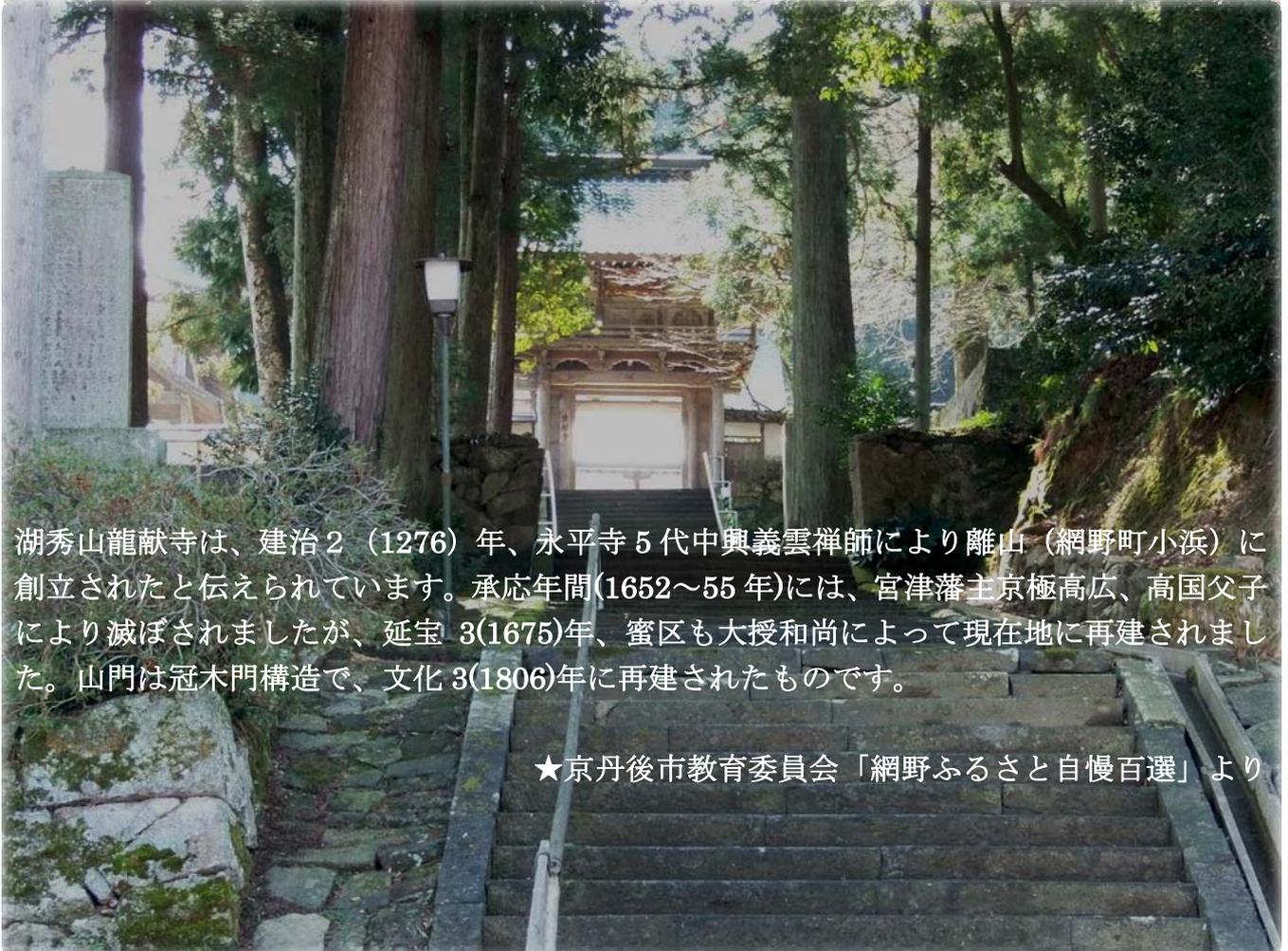
※加茂神社については「加茂川地区の紹介」で紹介しています。



岡田集落の山懐にある不動滝



岡田 龍献寺



湖秀山龍献寺は、建治2（1276）年、永平寺5代中興義雲禅師により離山（網野町小浜）に創立されたと伝えられています。承応年間（1652～55年）には、宮津藩主京極高広、高国父子により滅ぼされましたが、延宝3（1675）年、蜜区も大授和尚によって現在地に再建されました。山門は冠木門構造で、文化3（1806）年に再建されたものです。

★京丹後市教育委員会「網野ふるさと自慢百選」より